

科目名	医療心理学特講	担当者	カマクラ 鎌倉 ヤヨイ やよい	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	医療では、呼吸訓練や食事の制限など、患者に行動変容を求める場面が多い。これらは、患者教育として「医療者が指示する方法」が中心であり、「患者が実行するための援助」は十分とはいえない。患者自身が行動を変容させ、自律的に実施できるようにする技法が必要である。医療心理学として、応用行動分析学の基本的な行動の原理を基盤に、患者の行動変容を促す技法を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療場面での人の問題行動を観察し、ABC（先行条件・行動・結果）分析を実施できる。 2) 医療場面での問題解決のために、ABC分析に基づき、結果の操作によるアプローチ（強化）及び先行条件の操作によるアプローチ（弁別）を計画できる。 3) 望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について、医療場면을例示し「漸次的接近」「分化強化」に基づき説明できる。 4) 新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について、医療場면을例示し「先行子操作」に基づき説明できる。 		
学修方法	<p>基本教材1：教材に従って、基本的な行動原理のうち特に「強化」「弁別」を十分に理解していただきたい。その上で、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、その行動アセスメントとして、ABC分析を実施して行動随伴性を明らかにする。その問題行動を解決するために、結果の操作（強化）及び先行条件の操作（弁別）による行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p>基本教材2：教材に基づき、新しい行動を形成する方法を学習する。第Ⅲ部から第Ⅴ部まで詳述された行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について医療場面の具体例を検討する。ここでは、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」として、「分化強化」「先行子操作」の技法を学習し、行動変容のためのアプローチを検討する。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1は前期に、基本教材2は後期に学習してください。いずれも、まず教材を熟読して内容を理解していただきたい。その上で、レポート課題の順に、レポートを作成して提出してください。提出されたレポートについて、添削し、コメントを入れて返信します。このプロセスを2回程繰り返すので、コメントを通して理解を深めていただき、再度レポートを提出してください。最終的にレポートが受理できる段階となった時、レポートを受理する旨を返信します。</p> <p>また、学習順序に従ってレポート課題を設定しているため、レポート課題(1)が受理された後に、レポート課題(2)に取り組んでいただくことが望ましい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学習された教材内容が要約として示されていること 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) レポートの形式的条件を満たしていること
	平常評価	30%	<ol style="list-style-type: none"> 1) 草稿用レポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) レポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) レポート提出など、学習スケジュールが適切であること
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1) 以下に行動変容法を臨床応用した研究を紹介するので、参考にしてください。 鎌倉やよい・坂上貴之（1996）手術前呼吸練習プログラムの開発とその効果の検討. 日本行動分析学研究, 9 (1), 2-13. 山口真澄・鎌倉やよい・深田順子・他（2006）幽門側胃切除術後患者における退院後の食事摂取量の自律的調整に関する研究. 日本看護研究学会雑誌, 29 (2), 19-26. 布谷摩耶・鎌倉やよい・深田順子・他（2012）クローン病患者への食事指導プログラムの開発と有効性の検証. 日本看護科学学会, 32 (3), 74-84. 廣島香代子・鎌倉やよい・深田順子・他（2014）心臓手術後リハビリテーションにおける運動の自律的調整. 看護研究, 47 (6), 551-562. 2) レポートは、教材による学習内容を要約した上で、課題に応用して論じて下さい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 今本繁，島宗理 教材名： 『対人支援の行動分析学(改訂版)』(ふくろう出版，2008年) ISBN:978-4-86-186363-9 1,900円+税
	本書は行動の法則，行動をアセスメント，介入効果を評価するためのシングルケーススタディ，行動変容アプローチの基礎知識について，実践的にわかりやすく説明されている。 次に，問題行動に対するポジティブなアプローチ，恐怖や不安へのアプローチ，セルフマネジメント，パフォーマンスマネジメントとして，行動変容のための方法論が具体的に説明され，さらに，医療・リハビリテーション分野への応用として具体例が示されている。
参考図書	P.A. アルバート，A.C. トールマン (佐久間，谷，大野，訳) 『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』(二瓶社，2004年) ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税
履修上のポイント	行動は環境との相互作用である。問題行動と思われたとしても，どの様な場面で引き起こされ，その結果何が生じているのか，的確にアセスメントすることが必要である。まず，教材に従って学習した後，医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，行動アセスメントとしてABC分析を実施して，3項強化随伴性を学習する。次に，問題行動を解決する技法を学習し，なかでも結果の操作(強化)並びに先行条件の操作(弁別)によるアプローチを学習していただきたい。
レポート課題 1	医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，問題と思われる行動について，行動アセスメントとしてABC分析を行い，その3項強化随伴性について論じなさい。 留意点： 病院での医療場面，外来での場面，患者として自分の行動を観察するのも良い。簡単な例として，「ゴミがベッド下に散乱する安静臥床患者」，「運動訓練をいやがる患者」，「薬を飲み忘れる患者」，「頼みにくい医師や看護師」，「外来で歩き回る患者」など，参考にしていきたい。
レポート課題 2	高脂血症患者(男性，身長 170cm，体重 80kg)が運動して BMI25 未満 72kg まで体重を減らすように指示されたが，万歩計の1日の歩数を増加させることができません。学生各自が情報を追加して事例を設定し，なぜ歩数が増加しないのか，「歩く」行動についてABC分析を行い，「強化」と「弁別」によるアプローチを論じなさい。 留意点： 行動変容へのアプローチのうち，「結果の操作によるアプローチ(p80)；強化」「先行条件に焦点を当てたアプローチ(p99)；先行子操作」を理解することを目的とする。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー (園山，野呂，渡部，大石，訳) 教材名： 『行動変容法入門』(二瓶社，2006年) ISBN:978-4-86-108025-8 3,600円+税
	本書は，第1部「行動と行動変化の測定」，第2部「基本的な行動の原理」，第3部「新しい行動を形成する方法」，第4部「望ましい行動を増やし，望ましくない行動を減らす方法」で構成されている。第1・2部が行動分析学の基礎がわかりやすく記され，第3・4部には行動変容を導く技法がわかりやすく述べられている。具体例が多用されているため，行動変容法について医療場面に置き換えて学習することができる。
参考図書	P.A. アルバート，A.C. トールマン (佐久間，谷，大野，訳) 『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』(二瓶社，2004年) ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税 日本行動分析学会(編) 『行動分析学研究アンソロジー2010』(星和書店，2011年) ISBN:978-4-79-110763-6 3,500円+税
履修上のポイント	基本教材2の第1部は行動の測定，第2部は基本的な行動原理のうち特に「強化」「刺激性制御」を，十分に理解していただきたい。第3部から行動変容法が詳しく示されている。 本講では新しい行動を形成する方法として，「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について学習する。その方法として前者は結果にアプローチする「分化強化」を，後者は先行条件にアプローチする「先行子操作」を中心に学習する。
レポート課題 1	望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について，医療場面の具体例を示して，「漸次的接近」「分化強化」を用いて論じなさい。 留意点： 望ましい行動形成の医療場面として，「構音の学習」，「嚥下方法の学習」，「永久気管孔造設後のケア方法の学習」，「人工肛門造設後のケア方法の学習」，「小児へのトイレトレーニング」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。
レポート課題 2	新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について，医療場面の具体例を示して，「先行子操作」を用いて論じなさい。 留意点： 対象となる例として「採血など新しい技術の指導場面」「新たなケア方法や道具の操作の指導場面」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。